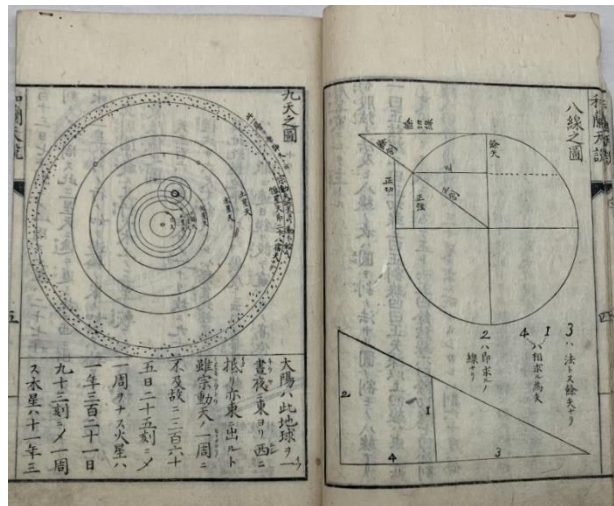
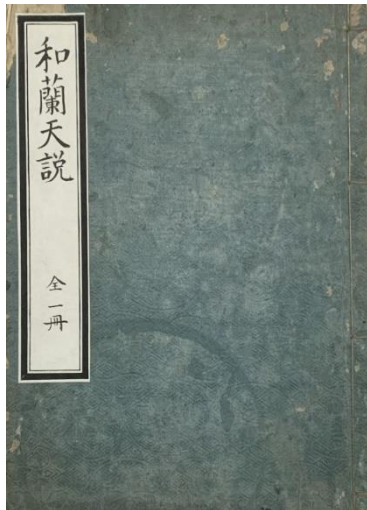


横浜市立大学学術情報センター
貴重書月替わり展覧会【オンライン】
バックナンバー

第126回 (2022年3月)



おらんだてんせつ
『和蘭天説』(1冊)

著：司馬江漢 (1747~1818)

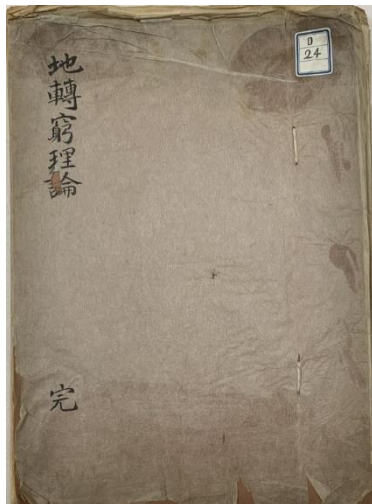
版：春波樓蔵

刊：寛政8 (1796) 年

縦 26.8cm×横 18.4cm

画家であり、思想家でもある司馬江漢によって記された書。

太陽の運行や惑星の公転、日食、月食などを述べ、また、多くの図を用いて地球の自転や重力の作用、自然現象が発生する仕組みなどを説明している。



『地転窮理論』（1冊）

著：片山円然（1764～？）

刊：文政10（1827）年以前か（識語による）

司馬江漢に師事し、幕臣で天文家であった片山円然による書。

『和蘭天説』等の司馬江漢の説を本とし、それに中国天文説を加えて述べている。

原典及び作品紹介リーフレットは、学術情報センターにて
公開、配布しています。